

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：34315

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2023

課題番号：20K21944

研究課題名（和文）ポストソ連とロシア人の伝統：若者たちが発掘し再生産するバラライカの演奏文化

研究課題名（英文）The Post-Soviet Era and the Tradition of Russians: The Performance Culture of the Folk Balalaika, Rediscovered and Reproduced by the Young Generation

研究代表者

大家 かわり（柚木かわり）（OIE (Yunoki), Kaori）

立命館大学・衣笠総合研究機構・プロジェクト研究員

研究者番号：40775045

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、ソ連崩壊後に成人した世代の手による、最近15年間の社会主義と資本主義がうまくかみ合ったロシア人の伝統文化の復興・再生産の実態を現地調査・分析したものである。成果は、Zoomによるロシア人奏者のインタビュー動画を各人と共同製作し、YouTubeのチャンネル「Balalaika & Cat」で日本語字幕付き（拙訳）での公開、得られた証言を基に、日露の学会での発表および論文執筆（ロシアからの招待多し）、12名の証言をまとめ、バラライカの歴史と旧ソ連における類似の楽器の概説を加えた一般書の日本語での出版、である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本ではロシア人の伝統文化は研究の主流ではなく、さらに現代の文化かつ担い手が都市のアマチュア層を研究対象とし、楽曲分析でなく、当該音楽の社会的文化的脈絡を明示するアプローチをとり、直接対話や観察をその原典とする、文化人類学的研究となると、日露ともに研究の前例がない。

従って本研究は、学術的には日露の文化研究を補完し、深化させる突破口となりえる意義がある。また、楽器バラライカという具体的な切り口から、ロシアという国、社会、ロシア人という民族、そのアイデンティティたるものを知り、理解するためのきっかけをつかむことができるため、戦後の日露関係の再構築を見据えた研究としての社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：This research involves a field survey and analysis of the revival and reproduction of traditional Russian culture over the past 15 years, a period during which socialism and capitalism successfully meshed. The revival has been led by the generation that came of age after the collapse of the Soviet Union.

The results of this research include: 1) The joint production of video interviews with Russian performers via Zoom, with Japanese subtitles (translated by me), on the YouTube channel "Balalaika & Cat"; 2) Presentations at academic conferences in Japan and Russia, and the writing of papers (with many invitations from Russia); 3) The publication of a book in Japanese, which includes testimonies from 12 interviewees and an overview of the history of the balalaika and similar instruments in the former Soviet Union.

研究分野：地域研究

キーワード：現代ロシア ポスト社会主義の文化 ロシア人 バラライカ ロシア民俗音楽 ロシア伝統文化 ロシアフォークロア

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 我が国では、ロシアの人口の8割以上を占めるロシア人の文化に関しては、文学、美術史学、音楽学、芸術学などに優れた研究が見られるが、文化の基礎研究に位置づけられる社会文化史的研究、ことに現地でのフィールドワークが必要となる民族文化や民俗文化に関する研究は全く手薄な状態である。研究開始当初はソ連崩壊30年を控え、ウクライナ侵攻前の会報的な雰囲気の中で日露関係の深化が期待されていた時期であり、学术界からも社会からも、ロシア人の現在の文化に関する実証的学術研究が求められていた。

(2) ロシアの民族楽器バラライカは日本で知名度も高く、民衆の楽器でありながらも国の政策に左右されているため、音楽文化の中でも文化動態が明確な形で見えやすい、いわば格好の研究材料である。そのソ連時代の政策と現状を、現地調査とロシア側との直接的なやり取りを基にして実証的に叙述することで、現地の人々の生きた声が直接聞こえないロシア研究の現状打開のきっかけになると思われた。

2. 研究の目的

(1) 当初の目的は、農村型バラライカ(伝統バラライカ)に興じるソ連崩壊以降に成人した若手愛好家たちの最近15年の活動を、現地調査や彼らとの直接対話を基に精査・分析することで、ソ連/ポストソ連の制度と世代が絡みあう現在のロシア人の伝統文化の、保存・変容・発展の諸相を明らかにすることとしていた。

(2) しかし、2020年以降はCovid-19の発生と蔓延、2022年以降はロシアのウクライナ侵攻により渡航ができず、研究方法に変更が生じたため、目的も規模縮小と若干の軌道修正を迫られ、現地調査の将来的実施を見据え、若手愛好家たちの活動の基礎となる基本情報を公開記録に残すこと、愛好家以外の既存分野の職業音楽家(アカデミックバラライカ)および既存分野から伝統音楽に移行した音楽家にも範囲を広げ、制度との距離を示すことでの独自性を描き出すこと、と変更することとなった。

(3) 本研究は、日本国内のロシア研究においては現代の音楽文化や超領域研究といった点で、ロシア国内では超領域かつ愛好家の文化という点で、従来研究対象になりにくかった分野である。したがって、前項に加え、日露双方に事実に・方法論的に刺激を与えること、日本におけるロシア研究者、特にロシア語を学ぶ学生を含む若い世代に対し、テーマの広がりの可能性を示すことを副次的な目的とする。

3. 研究の方法

(1) ソ連崩壊後に成人した世代の、かつ愛好家の文化となると、現地においても先行研究もなく出版物にもなりきっていない研究対象であるため、文化人類学の方法論を用いた直接対話と観察を研究の基盤に据えた。渡航不可により軌道修正を余儀なくされたが、観察については、イベントなどの情報収集をSNSの本人発信情報と、SNSのチャット機能を用いた聞き取りにより行い、直接対話はZoomを用いた聞き取り中心に切り替え、文化の従事者本人の言葉で文化史を語ってもらうことにした。

(2) インフォーマントの範囲は、2000年代初めから活動を始めていたバラライカ製作所および私設博物館の創始者とその職員・館員、2000年代終盤から活動を始め、上記と共に二大勢力となった愛好家の俳優、上記に影響を受けた、様々な職業の各地の愛好家、上記の方向性に対抗し2010年代終わりに出現した純粋伝統志向の集団、音楽の専門教育を受けており上記～に影響を与えた奏者・研究者、上記～とはまったく関係のないバラライカの職業音楽家(アカデミックバラライカ)とした。

4. 研究成果

(1) Zoomによるロシア人インフォーマント16名のインタビュー動画を各人と共同製作し、YouTubeの本研究のための専用チャンネル「Balalaika & Cat (<https://www.youtube.com/@balalaikacat>)」にて、日本語字幕付き(拙訳)で公開した。チャンネルには日露から半々のアクセスがある。実施時期がロシアでもコロナの「ステイホーム」期に当たったため、ロシアではインフォーマント側にも視聴者側にもある種のイベントとして受け止められ、却って現地調査時の聞き取りよりも密度の高い証言が得られたように思われる。動画は、日本の大学および民間のカルチャーセンターにて授業の補助教材として活用した。ロシア語専攻の大学ではロシア語をそのまま使い、専攻ではない大学とカルチャーセンターでは日本語字幕を利用して、ロシア人自身の生の声でロシア文化を知ってもらう機会とすることができた。YouTubeチャンネルの更新は、今後も継続する。

(2) 前項(1)および現地インフォーマントや研究者との公開不可のやりとりからは、愛好家たちが2000年代に突如発生したのではなく、歴史的に前振りがあったことが確認できた。1930年代の文化政策でヨーロッパの管弦楽やバレエを基に舞台上演式に改変されたロシアの民族文

化に対し、1960年代に民俗音楽の研究者たちがフォークロア運動を起こし、民俗アンサンブルを教育制度に取り入れたことで、両者は併存しながら現在に至っているが、声楽文化が主流だった後者で対象外とされたバラライカの場合は、活性化活動の主体がそのいずれにも疑問を呈するあるいは独自の見解を持つ形となっていたということが明らかになった。前項(1)のインフォーマントの中には民俗アンサンブル出身者や関係者がほとんどだが、関係性は各人様々であり、次項(3)にてそれぞれのケースを具体的な形で日本語で一般公開できたことには意義があるといえる。

(3) 前項(1)から12名の証言をまとめ(第3章)、バラライカの歴史(第2章)と、旧ソ連における類似の楽器の概説(第1章)を加えた一般書『ロシアの弦楽器バラライカ 過去から未来へ』(群像社、334頁)を日本語で出版した。本項は補助期間中に実施し、第1・2章の執筆に時間を割いた。第2章は2006年出版の拙著『民族楽器バラライカ』の増強版となり、前項(2)を含め本研究の成果を現代部分に反映させることができ、大幅に加筆を行った。第1章は出版社の提案で執筆に至ったが、旧ソ連圏(中央アジア、南カフカス地方および現ロシア領内)の類似の楽器の演奏文化と比較することによって、ロシア人の文化のほう为例外的であり、逆にそれがロシア人の文化の特徴であるという事実が浮かび上がるという、今後の研究への可能性を示すことができた。ロシア人の文化アイデンティティの問題と、旧ソ連圏の民族音楽文化の比較の方法については、継続して研究を行い、今後はウクライナの民俗音楽の研究に援用していく。

(4) 前項(1)で得られた証言と観察結果を基に、日露の学会で口頭発表(日本語5本、ロシア語7本)および論文執筆を行った(ロシア語2本)。ロシアからの招待が、前代未聞の閉塞感からコロナ禍では通常より多く、ウクライナ侵攻後も招待が続き、基本的にすべて受けたため、ロシア側に新たな研究対象を提示し、認知されるという目的は達せられたと思われる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Kaori Yunoki-Oie	4. 巻 1
2. 論文標題 Vzaimodejstvie spetsialistov i ispolnitelej-ljubitelej v vozrozhdenii i obnovlenii traditsionnoj balalaечноj kul'tury v nashe vremja	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Sbornik nauchnykh statej. V Vserossijskij kongress fol'kloristov: Sovremennaja nauchnaja mysl' o traditsionnoj narodnoj kul'ture	6. 最初と最後の頁 368-376
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kaori Yunoki-Oie	4. 巻 1
2. 論文標題 Nekotorые aspekty sovremennoj narodno-balalaечноj kul'tury	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Ispolnitel'skoe iskusstvo i pedagogika: istorija, teorija, praktika. Sbornik statej po materialam mezhdunarodnoj nauchnoj konferentsii 17-18 maja 2022. Saratov, L.B. Sobinov's State Conservatory.	6. 最初と最後の頁 240-244
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計12件（うち招待講演 8件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 柚木かおり
2. 発表標題 伝統文化の現在 ロシアのパラライカとウクライナのバンドゥーラを比較する
3. 学会等名 日本ロシア文学会第73回大会第73回大会 ワークショップ「ロシア周辺における文化的状況について」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柚木かおり
2. 発表標題 ロシアの都市の伝統パラライカの現在 制度の隙間からの出発
3. 学会等名 東洋音楽学会第74回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柚木かおり
2. 発表標題 現代の民俗バラライカの文化における伝統の継承者と規範
3. 学会等名 日本ロシア文学会第72回大会 ワークショップ「21世紀のロシア・フォークロア」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柚木かおり
2. 発表標題 民俗バラライカの現在 レパートリーを中心に
3. 学会等名 東洋音楽学会第73回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Nekotorye aspekty sovremennoj narodno-balalaечноj kul' tury
3. 学会等名 Mezhdunarodnaja nauchnaja konferentsija "Ispolnitel'skoe iskusstvo i pedagogika: istorija, teorija, praktika". Saratov, L.B. Sobinov's State Conservatory (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Aspekt sovremennoj kul' tury traditsionnoj balalajki: iz derevni v gorod i po vsej Rossii
3. 学会等名 VIII mezhdunarodnaja nauchno-praktičeskaja konferentsija "Geografija iskusstva". Moscow, The Russian Academy of Arts, GITR Film & Television School (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柚木かおり
2. 発表標題 伝統文化への2つのアプローチ：ソ連の文化政策と現資本主義下の若手バラライカ愛好家たち
3. 学会等名 日本ロシア文学会第71回大会 ワークショップ「民俗伝統文化の現在 ソ連崩壊30年を迎えて」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Vzaimodejstvie spetsialistov i ispolnitelej-ljubitelej v vozrozhdenii i obnovlenii traditsionnoj balalaечноj kul'tury v nashe vremja
3. 学会等名 V Vserossijskij kongress fol' kloristov, V.D. Polenov' s GRDNT (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Rok-muzyka v repertuare dlja narodnoj balalajki
3. 学会等名 Mezhdunarodnaja nauchno-praktičeskaja konferentsija “Rok-muzyka v kontekste sovremennoj kul'tury-2020”, SIAS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Kostromskaja balalajka v povsednevnotsti: iz ekspeditsionnykh zapisej 2001-2003 gg. Videopokaz s kommentarijami
3. 学会等名 II nauchnyj seminar “Traditsionnye muzykal'nye instrumenty v sovremennoj kul'ture”, SIAS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Poisk interpretatsii autentichnosti: narodnaja bakakajka v ljubitel'skoj srede
3. 学会等名 III nauchnyj seminar "Traditsionnye muzykal'nye instrumenty v sovremennoj kul'ture", SIAS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kaori Yunoki-Oie
2. 発表標題 Razvitie ljubitel'skoj kul'tury v narodno-traditsionnoj sfere: na primere russkoj balalajki
3. 学会等名 Mezhdunarodnaja konferentsija "Iskusstvo i mashinnaja tsivilizatsija", SIAS (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 柚木かおり	4. 発行年 2024年
2. 出版社 群像社	5. 総ページ数 334
3. 書名 ロシアの弦楽器パラライカー過去から未来へ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------